

・学校教育の指針  
・北の教育要覧  
・市の教育の重点

学校教育目標  
ふるさと見つけ、  
未来に向かって力強く生き抜く生徒の育成

・生徒の実態  
・保者の願い  
・地域の要望

研究主題 自ら学び自ら考えて表現する生徒の育成  
～生徒同士の横のつながりのある授業を通して～

## 研究仮説

子どもたちが解答のない社会を生き抜くためには、中学時代の今、自ら課題を見つけて、身に付けた知識・技能を活用し、主体的に解決していく力や、導き出した自らの考えを、多くの人へ発信していく力の素地をつくること大切である。また、生徒同士が横につながる中で様々な上位層の考えや技能にふれることで、学んだことを自ら考え、よりよく表現する生徒が育つと考える。このような主体的・対話的な学びが、全体の学びを引き上げる（深める・高める）ことにつながると考える。

## 道徳

研究主題に迫るために身に付けさせたい資質・能力

## 特別活動

## 各教科

学びに向かう力・人間性

興味・感心 主体的な学び  
自己理解・他者理解（思いやり） 文化理解  
リーダー性 安定した心 倫理観  
ビジョン形成力 耐えてやり抜く心

総合的な  
学習の時間

【授業改善の視点】  
主体的・対話的な深い学びの実現

各教科において  
習得する「知識・技能」

どのように学ばせ  
どのように定着させるか

【仮説】

知識・技能

学び方の習得とデザイン  
問題発見課題認識 解決力  
情報の収集・分析・解釈  
批判的思考 推論 主張  
情報発進力 コミュニケーション力  
価値付け 発想の転換 創造性

思考力・判断力・表現力

## 重点実践

- 1 生徒同士の「横のつながり」のある授業・活動
- 2 全体で引き上がっていくために上位層を活用する授業・活動
- 3 認め合う場面による自己有用感を高める授業・活動

## 具体的な実践事項

- ① 生徒同士の横のつながりで学びを深化させる。
  - ・ 一問一答を避け、生徒を起点とし、生徒から生徒へと広がっていく学び合いをコーディネートする。教える場面と教えない・反応しない場面を効果的に設定し、生徒の思考を促す。
  - ・ 生徒の思考が見える化し、変容の自覚、変容場面や変容原因が分かるようにする。
- ② 各学習活動において上位層を活用し、よいものから学ぶことで全体を引き上げる。
  - ・ 丁寧に学習状況を見取り、意図的に指名するなどして上位層の考えや表現、技術にふれさせる。
  - ・ 上位層の生徒をミニティーチャーとして活用するなど、生徒同士で学び合う場を設定する。
- ③ 学ぶ意欲を引き出すためのきめ細かな授業の創造に努める。
  - ・ 生徒が主体的に活動する場面や、思考・判断、意志決定する場面を毎時間の授業の中に多く設定し、表現活動を通して、他から認められる経験を積ませる。
  - ・ 生徒にとって必要感のある、わくわくするような課題を設定し、「分かった」「笑い（笑顔）」のある授業を構成する。
  - ・ 互いの授業を参観し合い、チームを意識して授業力を高め、日々の授業を実践する。
- ④ 各教科における基礎・基本を明確にし、学習内容の確実な定着を図る。
  - ・ 本時のねらいの明確化と、達成状況把握のため、学習のまとめや振り返りの時間の充実を図る。
  - ・ 「学習マラソン」「横につながるノート」に全校で取り組み、家庭学習の習慣化・質の向上に努める。
- ⑤ 生徒個々の学習状況に応じた学習指導の工夫・改善に努める。
  - ・ 校内の授業アンケートや授業力向上期間等、状況把握の手立てを工夫し、授業改善に生かす。
  - ・ 諸調査の問題及び結果を分析し、補充を行うとともに、出題傾向を授業改善に生かす。